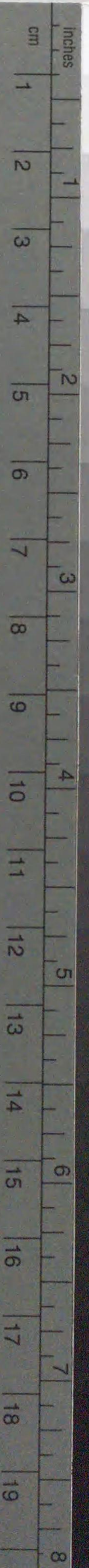


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

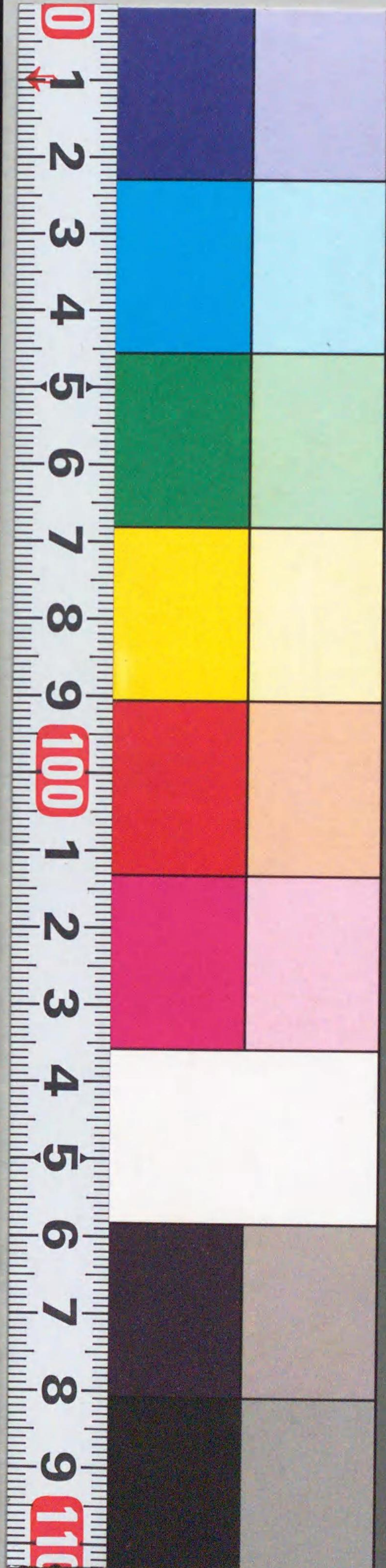
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Y994

J10300

克發日曜全每

明治二十六年二月二十四日

理財科講義

四十六第

專修學校

Y994-J10300

録 目

經濟史論	法學士	伴野乙彌
經濟考徵	法學士	井与辰九郎
銀行論目錄	法學博士	田尻稻次郎
商法 <small>(第一編第二 章商取引)</small>	法學士	鈴木宗言
私犯法	法學士	中川一介
二十年来經濟世界之景況	法學博士	田尻稻次郎
專修學校理財學會演說		
航路擴張論	文學士	中川恒次郎
日本銀行と日本ノ經濟及ヒ財政トノ關係	文學士	阪谷芳郎



1200901318120

起スハ敢テ不可ナシト雖モ苟モ其財政上ノ事情許ス可クンハ可成的迅速ニ之
 ナ償還シテ禍ヲ將來ニ貽サ、ルノ計ナ立テサル可カラサルナリ
 英國ノ公債ハ實ニ世界ニ類例ナキ巨額ニ上レリ故ニ一時學者ハ英國ハ公債ノ
 爲メニ遂ニ其國ヲ亡ホスニ至ラント唱フルニ至リタレトモ未タ嘗テ之カ爲メ
 英國ヲ危殆ナラシメタルコトアラス蓋シ公債ノ増加スルヨリモ寧ロ富ノ増加
 スルコト一層迅速ナルニ由ラスンハ英國ノ如キ顯象ハ之レアラサルナリ斯ノ
 如ク縱令公債ノ高幾許ノ巨額ニ上ルモ其富ノ増加ニシテ之ニ超ユルトキハ敢
 テ患フルニ足ラスト雖モ若シ其公債ヲ處置スルニ臨ンテ之カ宜シキナ失スル
 トキハ其禍害ヲ貽スモノナレハ最モ戒慎スヘキモノトス實ニ英國カカポレオ
 ン一世トノ戰爭ノ際非常ノ公債ヲ起シ而シテ爾後是ニ由テ英國ノ富ヲ發達増
 加セシメタルハ事實ナリト雖モ其富ハ二三富人ノ掌裡ニ歸シテ多數ノ英人ハ
 之ニ與ラサリシ而シテ其償還ハ多數ノ貧人又ハ勞働者ニシテ曩ニ該公債ノ爲
 メニ莫大ノ利益ヲ占握シタル二三ノ富人ノ如キハ割合ニ其償還義務ヲ負擔セ
 サリシ其故他ナシ當時ノ財政家ハ和蘭獨立戰爭ノ時ノ如ク總テ生計ノ必需品

ニ向テ課税シ是ヲ以テ公債ノ償還ニ供シタレハナリ然レトモ幸ニ英國ノ輿論ハ其償還法ヲ難スルモノナク又多少其政略ヲ攻撃シタルモノアリシト雖モ敢テ其方針ヲ變移セシムルノ勢力ナカリシナリ
抑英國ノ公債ハ二種類アリ何ツヤ曰ク永遠公債定期公債是ナリ永遠公債ハ單ニ其利子ノ支拂ヲ保證スト雖モ元金ノ償還ニ至テハ全ク政府ノ隨意ニシテ幾年ヲ期シ必ス償還セサル可カラスト云フカ如キ義務アルニ非ス又定期公債ハ豫シメ元金償還及利子ノ支拂ヲ確定スルモノナリ此ノ如ク定期公債ハ一定ノ期限内ニ於テ償還ノ義務アルモノナルヲ以テ自然公債額ヲ減少スルノ利益アリ之ニ反シテ永遠公債ハ償還期ニ制限ナキヲ以テ幾年ヲ經過スルモ其額ヲ減少スルコトナシ故ニ若シ一國ノ財政家ニシテ此永遠公債ヲ償還セント欲スルトキハ先ツ一旦之ヲ定期公債ニ更改セシ後順次償還スルヲ普通トス今英國ニ於ケル永遠公債償還ノ方法ヲ見ルニ其幾分ヲ年金ノ形ニテ償還スルヲ例トセリ而シテ其年金トハ畢竟有期公債ノ一ニシテ毎年其元利金ヲ支拂フモノ例ヘハ三十箇年ノ期限ニテ償還スヘキ公債アルトキ其元金ト利息トヲ別途ニ支拂

二

三

ハスシテ年賦ノ形ヲ以テ毎年同額ニ償還スルナリ然レトモ永遠公債ヲ年金法ニ依テ償還スルトキハ以下ノ如キ弊アリ第一其公債ノ需要ヲ減縮ス何トナレハ固ト年金ナルモノハ毎年其元金ヲ減少スルモノナルカ故ニ年々其價格低落スルモノナレハナリ元來世人ノ公債ヲ多少買取スル所以ハ唯其政府ノ發行ニ繫ルヲ以テ安全ニシテ且之ヲ轉賣スルニ容易ナルカ爲メナリ決シテ確實ナル有利ノ方法ト信シテ然ルニ非ス世間ノ廣キ事業ノ多キ其確實ニシテ有利ナル放銀ノ途極メテ尠ナカラス故ニ商人ノ如キ利殖ニ銳クシテ融通ニ敏ナルモノハ彼ノ年金公債ヲ欲セス唯年金公債ヲ望ムモノハ老後ノ計ヲナス老年者又ハ一時其資金ヲ流用スル途ナキ爲メ已ムヲ得ス暫ク之ニ放下スル保險會社等ニ過キサルナリ是レ年金公債ハ永遠公債ニ比シテ其需要ヲ減縮スル所以ナリ第二年金公債ハ人々之ヲ所有スルヲ嫌忌スルノ傾アリ何トナレハ普通三分利付ノ公債ニ對シテ或割合ノ所得稅ヲ賦課スルニハ唯其利金額ニノミ稅率ヲ用ユルト雖モ若シ同一ノ稅率ヲ三分利付年金公債ニ用ユルトキハ其元金ト利子ト相合シタル額ニ課稅セララル、ノ結果トナルヘシ故ニ年金公債ハ人々所有スル

ヲ欲セス

公債募集ノ事タル古昔ヨリ存在スルモノニシテ希臘羅馬人ノ如キモ業已ニ之ヲ認知シタリ降テヒヰリツブ二世及ヒ路易十四世ノ如キモ皆公債ヲ募集シタレトモ皆壓制時代ニ在ルナルヲ以テ概テ償還セサルヲ通例トシタルカ故ニ之ヲ募集スルニ當テモ頗ル困難ヲ極メタリ現ニシエームス一世ノ時倫敦ニ於テ公債募集ヲ試ミ又チャールズ一世モ同シク倫敦ニ於テ公債ヲ募集シタリト雖モ共ニ其目的ヲ達スル能ハス遂ニ各債主ノ請求ニ應シテ帝室財産ノ幾分ヲ割テ抵當品トナシ漸ク募集スルヲ得タリ夫レ是ノ如ク公債ヲ募集スルニ當テ抵當品ヲ要シタル所以ハ一ハ政府ノ不信用ニ基クト雖モ一ハ抵當品ナキトキハ其債主等ニ於テ所有ノ公債券ヲ第三者ニ轉賣スルニ際シ大ニ困難ヲ感スレハナリ然リ而シテ當時ニ於ケル英國ノ公債ハ現今ノ公債ト其趣キヲ異ニシ經濟ノ原理ニ適合シタルモノニ非スシテ唯一時帝室ノ便宜ニ依リ募集シタルモノナレハ從ヒテ其公債ハ皆有期ニシテ償還ノ際特別ノ租稅ヲ徵收シテ其目的ヲ達セリ

四

五

英國ニ於テ永遠公債ヲ募集シタルハ十七世紀ノ頃チャールズ二世カ佛國ノ路易第十四世ト同盟シテ和蘭ヲ攻撃シタル時ノ軍費ニ供用シタルモノヲ以テ濫觴トス而シテ此公債ハウヰリヤム三世即位ノ後元金ノ半額ヲ償還シ其殘半ハ全ク償還セサルコト、ナリタリ而シテ英國公債ノ多クハ皆革命時代ヨリ女王エーリノ治世間ニ募集シタルモノニシテ此時期ニ於テ斯ノ如キ莫大ノ公債ヲ起シタル所以ハ大陸トノ戰爭絶エサルニ因ル即チ西班牙ノ王位相續戰爭或ハ北米ノ獨立叛亂等ノ爲メ軍費ヲ要シ遂ニ英國ノ財政ヲ攪亂スルノ已ムヲ得サルニ至リタルニ因ル爾來久シク財政紛亂シタリシカ十八世紀ニ至リ有名ナル大政治家ウオルポール宰相出テ、始メテ漸ク之カ整理ヲ謀リタリ其方法ハ所謂借換法ナリキ乞フ之レヲ述ヘンニ前ニモ論述シタル如ク英國ノ公債ハ各其成立ノ事情ヲ異ニシ或ハ利息ニ差アリ或ハ償還ノ方法ヲ異ニスル等ノ爲メ甲ノ公債償還ニ供スル乙ノ租稅不足ニシテ丙ノ公債償還ニ供スル丁ノ租稅ニ剩餘アルモ以テ彼此流用スル能ハス故ニ假令償還基金ニ餘裕アリト雖モ毫モ其效用ヲ顯ハスコト能ハサルノ不便アリ是ニ於テウオルポール氏ハ各種ノ公

債ヲ一ニ纏メ以テ其利息ヲ一定シタリウオルポトル氏カ此ノ如ク財政ヲ整理
 シ得タル所以ハ一ハ其大手腕ニ由ルト雖モ當時ノ大勢實ニ乘スヘキノ好機會
 ナリトレヒト條約以來各國ノ間ニ戰爭ナク從テ英國ノ商業及農事ハ非常ニ進歩
 シ食物ノ價格亦下落シ新事業ハ概テ有利ノ好況ヲ呈シタル爲メ金利大ニ低廉
 トナリタルヲ以テ從來ノ公債價格ハ非常ノ高價トナリタリ經濟社會ノ有様已
 ニ此ノ如ク好況ナリシヲ以テウオルポトルハ巧ミニ之ヲ利用シテ盛ニ低利ノ
 公債ヲ起シ以テ高利ノ公債ハ悉ク償還シ各種ノ公債ヲ一ニ纏メ之カ利息ヲ一
 定スルノ好果ヲ收ムルニ至レリ元來借換ノ方策ヲ實行セシニハ先ツ一般市場
 ノ金利低廉ニシテ且生産ニ供用スル所ノ資本饒多ナル時ナラサル可カラズ之
 ニ反シテ市場ノ金利低廉ナラサル時ニ於テ獨リ公債ノ利子ノミヲ低下ナラシ
 メントスルトキハ是レ法律ノ力ニ依テ債主ヲ脅迫シテ公債ノ利子ヲ低下ナラ
 シムルナレハ世ノ物議ヲ起スハ必然ナリ然レトモウオルポトル氏ノ借換ヲナ
 シタルハ決シテ斯ル不穩當ノ手段ヲ取リタルニ非スシテ全ク時運ノ好機ニ投

シタルヲ以テ人々喜ンテ低利ノ公債ト交換シタリ實ニ當時英國ノ農商業非常
 ニ進歩シ一般市場ノ金利モ亦低廉ニシテ獨リ公債ノ利子ノミ高貴ナリシ徵證
 ナリ
 公債ヲ募集スルニ當テハ必ス一ノ特種ナル條件ヲ設クルモノナリ即チ普通ノ
 債務ト異ナリテ其元金ノ償還ヲ債主ノ隨意ニセシメサルコト是ナリ此條件ハ
 公債募集ニ最モ必要ナルモノニシテ若シ公債此條件ヲ缺キ債主隨意ノ請求ニ
 從テ其元金ヲ償還セサル可カラサルカ如キコトアラハ爲メニ政府ハ其財政ヲ
 紛擾スルノ虞アリ普通ノ商人又ハ銀行家ノ負債ハ其債主隨意ノ請求ニ應シテ
 元金ヲ償還セサル可カラサルノ義務アリト雖モ是等ハ他ニ負債ヲ起シ得ルコ
 ト容易ナレハ債主隨意ノ請求ニ從テ償還スルモ敢テ不可ナルコトナシ此レ公
 債ト私債トノ間ニ差アル要點ナリ
 公債ヲ償還センニハ必ス國庫ニ剩餘ヲ生シタル時ナラサル可カラズ而シテ其
 方法ニアリ一ハ政府直ニ公債ヲ償却スルモノ一ハ市場ノ價格ヲ以テ隨時公債
 ヲ買收スルモノ是レナリ今此二方法ヲ比較スルトキハ政府ニ於テ其公債ヲ買

收スルヨリハ寧ロ直ニ償還スルヲ以テ優レリトス
 英國ノ國會ハ常ニ政府提出ノ歲計豫算ニ幾分ノ餘裕ヲ與ヘテ協賛スルカ故ニ
 毎年其豫算額ヨリ多少ノ剩餘ヲ生スルヲ例トセリ何故ニ國會カ斯ク歲計豫算
 ニ餘裕ヲ與ヘ置クヤト云フニ英國政治上ノ慣例トシテ追加豫算ヲ提出シ國會
 ノ協賛ヲ經ンニハ重大ノ理由アルニ非スンハ能ハス故ニ豫シメ豫算ニ餘裕ヲ
 與ヘ置キ以テ可成的追加豫算提出ノ困難ヲ避ケシメントスルニ在リ是レ豫算
 額ヨリ幾分ノ剩餘金ヲ生スル所以ナリ而シテ政府ハ此剩餘金ヲ以テ年々公債
 ヲ買收シ以テ之カ償還ヲ計レリ然レトモ英國ノ公債總額ハ非常ニ莫大ナルヲ
 以テ僅々タル豫算ノ剩餘金ニ依リ一切ノ公債ヲ償還センコトハ到底期望ス可
 カラサルヲ以テウオルポール氏ハ經濟界ノ好機ニ乘シテ借換ノ方法ニ依リ各
 種ノ公債ヲ一途ニ纏メ利息ヲ一定シ且ツ低廉ナラシメ以テ大ニ之カ整理ヲ謀
 リタリウオルポール以後ノ政治家モ亦其方針ニ從ヒタリト雖モ唯少シク異ナ
 ル所ハ其募集ノ方法ヲ變更シタルコトナリ今其變更シタル募集方法如何ヲ見
 ルニ額面百磅ノ公債ヲ五十磅若クハ八十磅ノ價格ニテ市場ニ競賣スルニ在リ

濟學ニ屬スルモノナレハナリ夫レ然リ實ニ生理學者カ人身ノ作用ヲ理解セン
 トスルニハ須ラク腦髓ノ作用ヲ知ラサル可カラサルカ如ク國民經濟ノ全體ヲ
 了解セント欲セハ先ツ國家ノ經濟即チ各種ノ經濟中最大ニシテ間斷ナク自他
 ノ經濟ヲ左右スル所ノ一種ノ經濟即チ政府ノ經濟ヲ論究セサル可カサルナリ
 警察トハ政府ノ一權力ニシテ人民間ニ於ケル外部ノ秩序一切ノ紊亂ヲ直接ニ
 防止スルヲ以テ職務トナスモノ、謂ナリ警察ハ國民ノ生活ニ關スル各種ノ事
 項ニ於テ苟モ外部ノ秩序將サニ亂レントシ若クハ保護ヲ要スル時ニ於テ常ニ
 其職務ヲ行フモノナリト雖モ就中法律及ヒ經濟ノ領分ニ於テ特ニ肝要ナリト
 ス是ヲ以テ警察力ノ學問ハ諸種ノ學問ノ一部分ヲナシ而シテ其實際ノ目的ヲ
 達セントスルニハ其數部ヲ合シテ一體トナサ、ル可カラサルコトアリ然リ而
 シテ其諸種ノ學問ニ對スル關係ハ宛モ外科學ノ醫學ニ於ケル訴訟法學ノ法律
 學ニ於ケルカ如キナリ

第三節 國民ノ生活ニ關スル學問—統計學

統計學ハ或一定ノ時期及ヒ特ニ現時ニ於ケル社會ノ現象ヲ描出シ苦クハ表示スルモノニシテ諸種ノ科學ノ學理ニ從ヒ編制セラル、モノナリ此ノ如ク統計學ハ社會ノ種々ナル事實ヲ蒐集シ數字ヲ以テ之ヲ表示スルモノニ外ナラスト雖モ頗ル精密ナル注意ヲ以テ之ヲナサ、レハ終ニ誤謬ヲ來スノ虞アリ何トナレハ箇々別々ノ事實ヲ輕忽ニ觀察スルヲ以テ足レリトスルモノニ非スシテ苟モ關係アリ若クハ類似シタル事實ハ悉ク之ヲ蒐集シ彼此ヲ對照シ以テ數字上ノ關係ヲ發見スルコト極メテ緊要ナレハナリ而シテ充分ニ事實ヲ列舉シ之ヲ精確ニ記載スルトキハ敢テ誤謬ニ陷ルノ患ナカルヘシ然リ而シテ諸種ノ統計中特ニ經濟ニ關スル統計ハ最モ主要ナル部分ヲ形造シ其數ヲ論スルニハ最モ便利ナル部分ニシテ能ク經濟學ノ理論ヲ構成スル爲メ材料ヲ與ヘ且其已ニ形成セラレタル理論ノ基礎ヲ鞏固ニシ又經濟ノ定理ヲ實際ニ應用スルカ爲メニ必須ナル要具トナルモノナリ

第四節 私經濟學——官房學 [Cameral wissenschaft]

十

十一

中世紀ノ末葉以來獨逸諸州ニ於テ官房即チ獨逸語ノ (Kammer) ト稱スル組織起リ專ラ官有地ヲ管理シ及ヒ法律上ノ權利ヲ監察スルヲ以テ其職務トシタリ爾後此官房ナルモノ大ニ發達シ其執ル所ノ事務モ亦漸ク増加シ警察行政ノ如キモ其掌ル所トナリ一國行政ノ爲メ並ニ政府收入ノ爲メ有用ナル部局トナレリ是ニ於テカ此等ノ職務ニ從事スヘキ官吏ニ教授スヘキ學問必要トナリタリ即チ未タ當時ノ法律學ノ講義中ニ包含セラレサリシ所ノ諸學科一團ノ學問トナリテ官房學ト稱セララル、ニ至レリ普魯亞國王フリードリヒ、ウヰルヘルム第一世ハ一千七百二十七年特ニ官房學ノ講席ヲハルレ及ヒフランクフォルト、オン、ゼー、オーデルノ二箇所ニ設ケガツセル及ヒジトマールノ二氏ヲシテ講義ヲナサシメタリ是ニ於テ獨逸諸大學ニ亦官房學者ノ一派起リユング、ロエシツヒ及ヒシユマルツノ諸氏ヲ經テ遂ニ今日ニ及ヒタリ

元來此官房學ナル名稱ハ始メヨリ確定シタル意義ヲ以テ造ラレタルニ非サレハ今ニ至リ其用法一定セス從テ其範圍モ亦學者ニ依リ異同アリトス之ヲ要スルニ獨逸ニ於ケル經濟學ハ法律學及ヒ官房學ヨリ發生シ英國及ヒ伊太利國ニ

於ケル經濟學ハ專ラ財政及ヒ外國貿易ニ關スル問題ノ研究ニ基テ起リタルモ
ソナリ

第五節 私經濟學 (承前)

官房學ナルモノ、如何ハ前節ニ述フル所ノ如シ今若シ其中ヨリ一般ノ經濟學
ニ共通ナル事項即チ公經濟學ニ關スル事項ヲ除去スルトキハ其殘部ハ許多ノ
法則定規ニシテ例ハ私人營業ノ重ナル種類ヲ支配スル法則及ヒ其業ヲ營ム
ニ當リ最大ノ利益ヲ得ヘキ方法等ヨリ成レルコトヲ發見スヘシ今其重要ナル
事項ヲ摘示スレハ森林經濟、農業經濟、鑛山學、工業學、建築學及ヒ總テ製造所ニ繫
ルコトヲ包含ス及ヒ商業學等是ナリ
官房學ナル名稱ハ全ク舊套ニ屬シテ適當ナルモノニ非サレハ總テ是等ノ諸科
ハ之ヲ綜合シテ私經濟ナル名稱ソ下ニ包括セシムルヲ勝レリトス然レトモ素
ト是等ノ諸科ハ各純然タル單一ノ學問アルニ非スシテ博物學下經濟學トナ以
テ混成シタルニ過キササルナリ例ハ農業經濟ニ於テ地味ノ種類、土地ノ耕作及

七種々ノ動植物等ニ關スル知識ハ博物學ニ屬シ又生産費、資本ノ使用、勞銀、產物
ノ交易純生産物及ヒ地價等ニ關スル知識ハ全ク經濟學ニ屬スルカ如シ故ニ經
濟學者ハ亦官房學ノ物理的側面ノ知識ヲ要ス而シテ此ノ如キ知識ハ細部ニ於
テ活動スル各理論ノ爲メ且特ニ經濟學ヲ實際ニ應用スルカ爲メ必要缺ク可カ
ラサルモノナリ此二箇ノ學問ノ間ニ大ナル差別存セリ即チ官房學者ハ唯有形
貨物ヲ生産スルコトヲ主トシ經濟學者ハ其國民生活ニ對スル關係上ニ於テ貨
物ノ生産ヲ考察スルモノナリ

第六節 經濟學ハ何ニ就テ論究スルヤ

凡ソ經濟學ノ主トシテ論究スル所ハ國民ノ有形上ノ利益ニ在リ即チ一國人民
ノ種々ノ欲望殊ニ衣食住等ノ欲望ハ如何ニシテ之ヲ濟充シ得ヘキヤ又此等ノ
欲望ノ濟充ハ全體ノ國民生活ニ向テ如何ナル影響ヲ及ボシ又國民生活ノ爲メ
ニ如何ナル影響ヲ被ムルヤヲ尋討スルモノナリ果シテ然ラハ經濟學ノ要用ナ
ルコト知ルヘキノミ實ニ經濟學ノ事物殊ニ富ノ有用ナルコトハ人皆熟知スル

所ナリベールコン氏嘗テ美德ト富ノ關係ヲ論シテ曰ク美德ノ富ニ於ケルハ猶夫
 ノ軍隊ノ輻重ニ於ケルカ如シトゼノフォン氏ノ説ニ云ク富ハ巧ミニ之ヲ使用
 スル人ニ取テ而已實際有用ナルモノナリ今經濟上ノ觀點ヨリ之ヲ視ルニ最モ
 幸福ナル人ハ最モ多額ニ且正當ニ富ヲ蓄積シ而シテ最モ巧ミニ之ヲ使用スル
 人ナリ若シ其富ノ蓄積及ヒ運用ニシテ宜シキヲ得スンハ決シテ各箇人及ヒ社
 會ノ經濟ヲ發達セシムルコト能ハサルノミナラス却テ國家ヲ危フスルモノナ
 リト

經濟上ノ事項ハ斯ノ如ク重ンスヘキモノナリト雖モ開明ノ低度ナリシ世例ヘ
 ハ中世ノ如キ時代ニ在テハ之ヲ尊重セサルコト往々之アリト云フ説アリ然レ
 トモ此ノ如キ事態ハ彼ノ時代ト雖モ稀ニ見ル所ニシテ決シテ普通ノ事實ニ非
 サルヘシ願フニ唯開明ノ度如何ニ由リ其利益快樂ノ爲メニ獲得セント欲スル
 所ノ物異ナルノミナラン何レノ時代ニ在テモ已レノ利益幸福ヲ謀リ之ヲ獲得
 センコトヲ重ンセサルモノナカルヘシ即チ未開ノ人民間ニ在テハ體軀上ノ欲
 望ヲ感スルコト迥ニ知識上ノ欲望ニ過キ又開化セル人民中ニ在テハ心意上ノ

欲望ヲ感スルコト甚シキカ如キ差アルニ過キサルナリ然リ而シテ既ニ開化ノ
 度頂點ニ達シ漸ク將サニ衰頽セントスルニ當テハ又一般ニ有形ノ需要ヲ重ン
 スルノ甚シキニ至ルモノトス是恰モ資産ヲ蓄積セント欲スル箇人カ其高年ニ
 至テ富貴ノ頂巔ニ達スルト均シク一國ニ在テモ亦然リトス其國民發達シ最盛
 ノ時代ニ及フトキハ又衰頽ヲ來タスノ習アリ即チ人民開化スレハ有形ノ貨物
 ナ欲スルノ度甚シキニ過クルハ通常ノ事態ニシテ爲メニ國家ノ滅亡ヲ致シタ
 ルコト歴史上比々其適例ヲ見ル乃チ彼ノ猶太人ニ於ケルスパルタニ於ケルア
 ゼンニ於ケル又羅馬ニ於ケル其衰頽滅亡ノ事實皆之ヲ證セサルハナシ是ニ由
 テ之ヲ觀レハ經濟ノ事タル國家ニ對シ實ニ大ナル利害ノ關係ヲ有スルモノニ
 シテ其之ヲ論スル經濟學ノ如キハ吾人ノ須ラク意ヲ用非テ論究セサル可カラ
 サルモノナリ

第三章 經濟學研究ノ方法

第一節 舊來ノ方法

經濟學研究ノ方法種々アリト雖モ今日ニ在テハ既ニ陳腐ニ屬シ採用スルニ足ルモノ鮮ナシ例ヘハ中世紀ノ頃盛ンニ行ハレタル神學的方法ノ如キ又ハ十七世紀頃ノ法律的方法ノ如キ是ナリ然レトモ經濟學ニ數理的方法ヲ適用スルコトハ時代ノ知識上ノ傾向ニ適合スルモノナリ凡ソ經濟學ニ於テ數學ト同一ナル諸點ヲ有スルコトハ吾人ノ首肯セサルヲ得サル所ニシテ其數學ニ屬スルカ如キ抽象的理論少ナカラス又數學ニ於テ嚴密ニ云ヘハ數理上ノ線若クハ點ノ存在セサルト同シク經濟學ニ於テモ亦全ク單純ナル生産若クハ地代ノ如キモノ曾テ之アルナク又數理上運動ノ定則ナルモノハ想像的ノ真空中ニ於テ作用ヲ有スルモノニシテ此定則ヲ實際ニ適ツルニ於テハ空氣ノ抵抗ノ爲メ著シク變化ヲ受クルモノナルカ經濟學ノ定則中ニモ之ト同一ナルモノ極メテ多シ例ヘハ物品ノ價格ハ賣手買手間ノ需要供給ニ因テ定マルト云フ法則等ノ如キ是ナリ又經濟學ニ於テハ結約當事者ハ唯各自ノ利益ノ感情ニ依テ指導セラレ他ノ理想ニ由リテ左右セラレサルヲ假定スルヲ常トス夫レ此ノ如ク經濟學ト數學トハ相類似スル所多キヲ以テ古來經濟學ノ法則ニ裝ハシムルニ代數ノ方式

銀行論目錄

第一卷

第一章 總論

第一款 銀行ノ釋義 一〇丁

第二款 銀行ノ效用 三三丁

第二章 銀行資金

第一款 株金 二五丁

第二款 預ケ金 二六丁

第三款 紙幣發行 三一丁

第一項 往時ノ伊太利法 三二丁

第二項 ロ一主義 三五丁

第三項 佛國法 四〇丁

第四項 英國法 四四丁

第五項 米國法 四七丁

第六項 獨逸法 四九丁

第七項 自由發行法 五三丁

第八項 不換紙幣即チ強通法 五六丁

第四款 銀行資本多少ノ利害 九〇丁

第三款 銀行資金ノ使用 九三丁

第一款 手形割引 九三丁

第一款 手形割引 九四丁

第二款 手形割引ノ手續 一〇八丁

第三款 手形割引ニ要スル利益 一一八丁

第四項 手形ノ割引ヲ以テ信用ノ使用ヲ調理スルヲ 一三一丁

第二款 貸付 一四二丁

第一款 普通貸付 一四三丁

第二項 保證貸付 一五六丁

第三項 信用貸付 一六三丁

第四項 貸付ト割引ノ比較 一六四丁

第三款 公債證書及ヒ金銀等ノ買入 一七一丁

第一項 公債證書ノ買入 一七三丁

第二項 金銀買入 一七八丁

第三項 結論 一八二丁

第四章 準備金 一八七丁

第一款 準備金ノ多寡 一八七丁

第二款 準備聚合法及準備分離法 二〇二丁

第五章 小切手 二〇七丁

第一款 小切手ノ性質並ニ其便益 二〇七丁

第二款 小切手ノ濫用並ニ其使用上ニ要スル注意 二一〇丁

第六章 小切手銀行 二二九丁

第七章 交換所

第八章 爲換

第一款 爲換ノ釋義及其便利

第二款 爲換相場ノ變動

第一項 爲換相場變動ノ區域

第二項 爲換相場區域外ノ變動

第一節 手形ノ期限カ其價格ヲ變動スルコト

第二節 利子歩合ニ由リ手形ノ價格ヲ變動スルコト

第三節 金銀價格ノ變動ニ由リ手形ノ價格ヲ左右

スルコト

第四節 貨幣ノ景況ニ據リ爲換相場變動スルコト

第五節 商業ノ景況又ハ戰爭等ノ爲メ一時運送ノ

危険ナルニ由リ爲換相場ニ變動ヲ來タス

コト

二三五丁

二四一丁

二四一丁

二四三丁

二四三丁

二四九丁

二五〇丁

二五四丁

二六一丁

二六六丁

二六六丁

二六八丁

二六八丁

第六節 金銀輸出ノ禁止ニ由リ爲換相場ニ變動ヲ

來タス

第七節 結論

第三款 爲換ノ逆戻ヲ矯正スルノ方法

第一項 輸入超過ニ由リ生スル逆戻ノ矯正法

第二項 外債ノ元利其他運賃保險料等ノ支拂ノ爲メ

送金ノ多キヨリ生スル爲換ノ逆戻ナルヲ

矯正スルノ方法

第三項 外國若クハ他ノ場所へ資金ヲ移シ又ハ貸付

ヲ爲ス等ヨリ起ル所ノ爲換ノ逆戻ヲ矯正ス

ルノ方法

第四項 利子割引歩合ノ低キヨリ爲換ノ逆戻トナル

ヲ矯正スルノ方法

第五項 貨幣ノ磨滅又ハ紙幣ノ發行若クハ其下落ニ

由リ生スル所ノ爲換ノ逆戻ヲ矯正スルノ方
法

二九一丁

第六項 外國へ償金ヲ支拂ヒ又ハ年貢ヲ支拂フガ爲

メニ爲換ノ逆戻トナルヲ矯正スルノ方法

二九四丁

第七項 手形ノ取扱ニ由リ爲換ノ逆戻ヲ矯正スルノ

方法

二九五丁

第八項 結論

二九八丁

第四款 爲換ノ計算法

三〇三丁

第五款 爲換ノ仲立並ニ仲立勘定ノ事

三〇七丁

第十章 恐慌

第一款 恐慌ノ原因並ニ其豫防及ヒ救濟法

三一八丁

第二款 恐慌ノ實例並ニ其景況

三二〇丁

第一項 西曆千七百九十三年ノ恐慌

三二〇丁

第二項 西曆千八百十年ノ恐慌

三二四丁

三二二

三三三

第三項 西曆千八百五年及ヒ同千八百十八年ノ恐慌

三二八丁

第四項 西曆千八百二十五年ノ恐慌

三三一丁

第五項 西曆千八百三十七年及同千八百三十九年ノ

恐慌

三四一丁

第六項 西曆千八百四十七年ノ恐慌

三四四丁

第七項 西曆千八百五十七年ノ恐慌

三五〇丁

第八項 西曆千八百六十六年ノ恐慌

三五七丁

第九項 結論

三六三丁

第十章 特立銀行並ニ支店

三六五丁

第十一章 銀行會社責任

三七三丁

第二卷

第一章 佛蘭西銀行

三八一丁

第一款 指令官政府及ヒ第一帝國ノ時期

三八二丁

第二款	王政回復ノ時期	三九二丁
第三款	西曆千八百三十年ヨリ同千八百四十八年ニ至 ルノ時期	三九七丁
第四款	西曆千八百四十八年ヨリ同千八百七十年ニ至 ルノ時期	四〇〇丁
第五款	普佛戰爭並ニ内亂ノ時期(西曆千八百十七年ヨ リ同千八百七十一年マテ)	四〇七丁
第六款	西曆千八百七十一年ヨリ現今マテノ景況	四〇九丁
第七款	佛蘭西銀行支店ノ事	四一二丁
第八款	佛蘭西銀行内部ノ組織	四一五丁
第九款	佛蘭西銀行ノ事務	四一八丁
第一項	紙幣發行	四一八丁
第二項	佛蘭西銀行ノ手形集簿、正貨準備及ヒ手形ノ 預ケ入	四二一丁

第三項	當座勘定及ヒ移用	四二八丁
第四項	租稅其他ノ義務	四三一丁
第五項	佛蘭西銀行ノ所得其株券價格及ヒ割賦	四三四丁
第六項	佛蘭西銀行ノ貸付	四三六丁
第七項	證書類及ヒ地金抵當ノ貸付	四三六丁
第八項	佛蘭西銀行ノ政府ヘノ貸付	四三九丁
第九項	普佛戰爭並ニ内亂ノ時ノ貸付	四四四丁
第十項	巴里府ヘノ貸付	四五二丁
第十一款	佛蘭西銀行ノ貸借勘定	四五四丁
第十二款	府縣銀行	四六四丁
第二章	獨逸ノ銀行	四六九丁
第一款	沿革	四六九丁
第二款	帝國銀行	四七〇丁

第一項 資本及準備	四七一丁
第二項 事務ノ管理、監督及支店	四七一丁
第三項 流通紙幣	四七三丁
第四項 利益ノ配當	四七四丁
第五項 事務取扱	四七五丁
第三款 私立銀行	四七六丁
第一項 私立銀行ノ職務	四七七丁
第二項 紙幣發行私立銀行ノ利益ニ賦課スル租稅	四八一丁
第四款 統計一覽	四八一丁
第三章 墺地利匈牙利銀行	四八三丁
第一款 沿革	四八三丁
第二款 銀行組織	四八四丁
第一項 資本及準備	四八四丁
第二項 事務ノ管理及支店	四八四丁

第三項 流通紙幣	四八六丁
第四項 政府ト銀行トノ關係	四八九丁
第五項 租稅其他ノ義務費及利益	四九〇丁
第六項 事業ノ種類並ニ一覽表	四九一丁
第四章 白耳義國立銀行	四九三丁
第一款 沿革	四九三丁
第二款 資本及準備	四九四丁
第三款 事務ノ管理及支店	四九五丁
第四款 紙幣流通	四九五丁
第五款 租稅其他ノ義務及利益	四九六丁
第六款 事務ノ取扱	四九八丁
第七款 國庫出納役トシテノ職掌	五〇一丁
第五章 北米谷衆國銀行	五〇六丁
第一款 沿革	五〇六丁

第一項	西曆千七百八十年ヨリ千八百三十七年ニ至ルノ時期	五〇六丁
第二項	西曆千八百三十七年ヨリ同千八百六十三年ニ至ルノ時期	五〇九丁
第二款	現今ノ組織	五一一丁
第一項	銀行ノ制度及ヒ組織	五一一丁
第二項	政府ノ監督	五一五丁
第三項	資本準備及利益	五一七丁
第四項	預リ金	五二一丁
第五項	紙幣	五二三丁
第六項	國立銀行ノ準備	五三一丁
第七項	利子割引歩合	五三二丁
第八項	租稅其他ノ義務費	五三三丁
第六章	英國ノ銀行	五三七丁

第一款	英倫銀行	五三七丁
第一項	沿革	五三七丁
第二項	西曆千八百四十四年ノ銀行條例	五四四丁
第三項	事務ノ管理	五五三丁
第四項	株金	五五四丁
第五項	事務ノ取扱	五五四丁
第六項	西曆千八百九十三年以來ノ英倫銀行一般ノ統計	五五六丁
第二款	蘇格蘭ノ銀行	五六一丁
第一項	沿革	五六一丁
第二項	紙幣	五七一丁
第三項	事務取扱	五七二丁
第三款	愛蘭ノ銀行	五七四丁
第七章	伊大利ノ銀行	五七六丁

第一欸	沿革	五七六丁
第二欸	伊太利國立銀行	五七八丁
第一項	資本及準備金	五七八丁
第二項	事務ノ管理及支店	五七九丁
第三項	紙幣	五八〇丁
第四項	租稅其他ノ義務費	五八〇丁
第五項	統計	五八一丁
第三欸	國立銀行ニアラサル他ノ銀行ノ紙幣發行	五八三丁
第四欸	銀行組合	五八六丁
第八章	露西亞銀行	五八九丁
第一欸	沿革	五八九丁
第二欸	銀行一般ノ景況	五九一丁
第一項	資本準備並ニ利益	五九一丁
第二項	事務ノ管理監督及支店	五九一丁

第三項	事務ノ取扱	五九三丁
第九章	人民銀行	五九六丁
第一欸	總論	五九六丁
第二欸	諸外國ニ於ケル實況	五九七丁
第一項	獨逸	五九八丁
第二項	英國	六〇二丁
第三項	白耳義	六〇三丁
第四項	丁抹	六〇四丁
第五項	伊太利	六〇四丁
第六項	露西亞	六〇八丁
第七項	瑞西	六一〇丁
第八項	佛蘭西	六一〇丁
第十章	土地銀行	六一七丁
第一欸	土地銀行ノ素質並ニ沿革	六一七丁

第二款 土地銀行內部ノ機關	六一七丁
第三款 土地銀行證券	六一八丁
第四款 證券ノ發行	六一九丁
第五款 土地銀行ノ檢束及ヒ保護	六二〇丁
第六款 府縣區及ヒ組合會社ヘノ貸付	六二三丁
第七款 佛蘭西土地銀行ノ組織	六二三丁
第八款 佛蘭西土地銀行營業區域	六二四丁
第十一章 人民銀行規約並ニ土地銀行會社條例	六二六丁
人民銀行規約例範	六二七丁
人民銀行管理法	六二九丁
佛國土地銀行會社條例 <small>(西曆一千八百五十二年二月二十八日發布)</small>	六三一丁
第一章 土地銀行會社	六三一丁
第二章 土地銀行會社ノ貸付	六三三丁
第三章 土地銀行ヨリ發行スル負債證書	六三四丁

第四章 土地銀行會社ノ安全ト貸金完收トノ爲メニ 付與シタル特權	六三五丁
第一節 書入質權解除法	六三六丁
第二節 會社カ借主ニ對シテ行フ權利及處分法	六四〇丁
第一款 附托	六四〇丁
第二款 財産引揚及賣拂	六四一丁
第五章 雜則	六四五丁

銀行論目錄終

第一條 領通貨票及買取
 第二條 領通貨票及買取
 第三條 領通貨票及買取
 第四條 領通貨票及買取
 第五條 領通貨票及買取
 第六條 領通貨票及買取
 第七條 領通貨票及買取
 第八條 領通貨票及買取
 第九條 領通貨票及買取
 第十條 領通貨票及買取

〔三〕取引ノ目的物ハ產物商品又ハ有價證券タルコト
 商取引タルニハ必ス產物商品又ハ有價證券ノ轉換ヲ以テ目的トセサル可カラ
 ス而シテ土地勞力等ノ如キモノハ通常之カ目的物タルコト能ハサルナリ元來
 產物商品又ハ有價證券ナル文字ハ己ニ一言セシ如ク何レモ皆貨物ナル一語ノ
 意義中ニ包含セラル、コト明ニシテ唯其產物ナル文字ハ英語ノ(Produce)ニ該當
 シ生産者ノ方ヨリ觀察シタルモノ又商品ハ英語ノ(merchandise)ニ該當シ商業者ノ
 方ヨリ觀察シタルニ過キス又有價證券ハ英語ノ(valuable security)ニ該當スルモノ
 ニシテ株券手形公債證書等ノ類是ナリ而シテ前述セル如ク第四條ニ明示スル
 產物商品又ハ有價證券ナル文字ハ物ノ性質上ヨリ其區別ヲナシタルニ非スト
 雖モ觀察ノ方法ニ依テハ決シテ其區別ナルト云フ可カラサルナリ即チ其產物
 タルト否トニ論ナク苟モ賣買品トシテ之ヲ市場若クハ店頭ニ陳列シタル以上
 ハ皆商品ニシテ產物及ヒ有價證券ノ如キハ其中ニ包含セラル、一部分ニ過キ
 サルナリ又更ニ立法ノ點ヨリ論下スレハ前述ノ如ク種々異ナリタル文字ヲ列
 記シタルカ爲メ遂ニ混亂ヲ生シ人ナシテ之カ了解ニ苦マシメタリ然レトモ元

來商品ナル文字ハ商取引上ニ於タル品物ト云フ意義ヲ約言シタルコト疑ナシ
 果シテ然ラハ商取引テウコトヲ説明センカ爲メ重テ商品ナル文字ヲ用非タ
 ルモノニシテ到底論理ニ合セサルコト、云ハサル可カラス何トナレハ商品ニ
 シテ其何物タルコト判然タラハ更ニ商取引ノ定義ハ之ヲ明言スルヲ要セス又
 商取引ノ意義未タ分明セサルトキハ商品ノ何物タルヤモ亦了解シ難キノ理ナ
 レハナリ又産物ナル文字モ甚タ漠然タルヲ免レス即チ如何ナル程度マテ之ヲ
 應用スヘキヤ之ヲ換言スレハ産物ノ區域ヲ明知シ難キ所アリ或ハ穀物鑛物樹
 木等ノ如キ原産物ノミヲ指稱スト解釋スルモノアレトモ第四條ニ使用セル産
 物ナル文字ハ斯ル狹隘ノ意義ニアラサルナリ而シテ今其廣キ意義ニ解釋スル
 トキハ三様ノ區別アルカ如シ即チ(一)前述ノ原産物(二)製造物即チ物質ヲ變造製
 作シタル物ニシテ所謂工藝品ニ屬スルモノ(三)精神上又無形上ノ産物例ハ俳
 優ノ技藝若クハ學術上ノ著書ノ如キ是ナリ而シテ一二ノ意義ハ直ニ之ヲ第四
 條ノ産物ニ適用シ得ヘシト雖モ三ノ無形上ノ産物ニ至テハ之ヲ適用シ得ヘキ
 ヤ否ヤ頗ル疑ナキ能ハサルナリ何トナレハ商取引ニハ常ニ轉換ヲ必要トスル

モノナルニ無形ノ産物ハ之ヲ換換スルコト能ハサレハナリ

〔四〕 利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル趣意ヲ以テ取引スルコト

本項ハ其理由明白ニシテ別ニ説明スルノ必要ナキヲ以テ今簡單ニ之ヲ例解セ
 ンニ茲ニ人アリ五圓以上ニ賣却スルノ目的ヲ以テ或書籍ヲ四圓ニ買取ルカ如
 キハ純然タル商取引ナリト雖モ若シ然ラスシテ唯自己展讀ノ爲メ之ヲ購求ス
 ルカ如キハ商取引ニ非サルナリ又假令當初利益ヲ得ントノ目的ナリシモ已ム
 ヲ得サル事情ニ制セラレ損失シテ賣却スルコトアルモ其商取引タルヲ妨ケサ
 ルナリ是他ナシ第四條ニ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メ云々トアルヲ以テ苟モ其目
 的ニシテ利益ヲ得ルニ在レハ實際ノ損得如何ハ毫モ問フ所ニ非サレハナリ又
 生計ノ爲メニスルトハ生活ニ要スル資料ヲ得ル所以ノ事業ニシテ只不時ノ奇
 利ヲ計ルカ如キニ非ス永久繼續シテ事業ヲ營ムノ謂ナリ

〔五〕 権利行爲タルコト

権利行爲トハ英語ノ(juristic act)或ハ(legal transaction)ニシテ(juristic act)ハ之ヲ法律
 上ノ行爲ト譯シ(legal transaction)ハ之ヲ法律上ノ取引ト譯ス凡ソ權利義務ヲ發

生シ移轉シ若クハ消滅セシムル等苟モ權利義務ノ消長ニ關スル行爲ハ皆權利行爲ナリ故ニ法律ノ範圍内ニ屬スヘキ契約賣買質入交換等ノ諸取引ハ一トシテ權利行爲タラサルハナキナリ

第四條ノ權利行爲ナル文字ノ上ニ直接又ハ間接ニ行フ所ト云ヘル數字ヲ置キタルカ爲メ皮相ノ見解ヲ以テ速斷スルトキハ其直接又ハ間接ナル文字ハ恰モ權利行爲ニ繋カルモノ、如シト雖モ果シテ其直接ノ權利行爲トハ如何又間接ノ權利行爲トハ如何ト推究スルトキハ大ニ其然ラサルヲ見ルヘシ抑、直接又ハ間接ナル文字ハ素ト物ニ對スル相對的ノ語タリ故ニ今其直接ノ權利行爲トハ何ニ對シテ直接ナルヤ又間接ノ權利行爲トハ何ニ對シテ間接ナルト云フニ終ニ之カ明解ヲ得ル能ハサルナリ是畢竟之ニ對スル所ノ物ナキニ因ルカ將タ吾人ノ研究未タ至ラサル所アルニ因ルカ要スルニ吾人ノ解得スル能ハサル所ナリ或人ノ說ニ云ク直接ノ權利行爲トハ實地ニ行フ所ノ現事業ヲ云ヒ間接ノ權利行爲トハ其豫備事業ヲ云フ例ヘハ運送會社カ運送事業ヲ行フハ所謂直接ノ權利行爲ニシテ其之ニ要スル運送具即チ船舶若クハ車輛ノ買入レ又ハ船

長機關師等ヲ備入ル、カ如キハ間接ノ權利行爲ナリト此說ノ趣意タルヤ實地ニ行フ所ノ現事業ト其豫備ノ事業トニ由テ直接間接ノ區別ヲナスニ在ルヲ以テ夫ノ運送會社カ運送業ヲ創始セント欲シテ或ハ社員ヲ募集シ運送具ヲ買入レ或ハ船長機關師ヲ備入ル、カ如キ行爲ハ當時ニ於ケル實地ノ現事業タリト雖モ其目的タル運送業ヲナスハ未來ニ屬セリ故ニ此場合ニ於テ直接ノ權利行爲ト稱スヘキハ運送具ヲ買入レ又ハ船長等ヲ雇入ル、ノ行爲ニシテ運送事業ニ對スルノ豫備即チ間接ノ權利行爲ナリ然ルニ今之ヲ指シテ現事業トセハ所謂運送業ノ豫備ノ豫備事業タル運送具ノ買入レ又ハ船長等ノ備入レニ要スル費金ヲ儲殖スルノ所爲モ亦商取引ト云ハサル可カラス果シテ然ラハ或時ハ運送事業ヲ指シテ直接ノ權利行爲ト云ヒ又或時ハ其豫備事業ヲ呼シテ直接ノ權利行爲ト云ヒ直接間接ノ意義會テ一定シタルモノナキカ如シ是果シテ正當ノ解釋ナルカ願フハ或人ハ直接及ヒ間接ナル文字ヲ強テ權利行爲ニ繋ラシメ以テ其說ヲ附會セント企テタルニ因リ斯ル不都合ノ結果ヲ見ルニ至リシモノナラン此故ニ予ハ條文ニ所謂直接及ヒ間接ナル文字ハ權利行爲ノ形容詞ニ過キ

スシテ其權利行為ニ繋ルモノ、如ク記載シタルハ全ク誤謬ニシテ立法者ノ精神ハ主トシテ轉換ナル文字ニ繋ラシムルニ在ルヲ信シテ疑ハサルナリ現ニ草案ニハ商取引トハ直接ト間接トヲ問ハス賣買賃貸其他ノ取捌キノ方法ニ依リ云々トアリテ直接間接ナル文字ヲ條文ノ起頭ニ置キタルヲ以テ意義明晰ナリシニ成文法トナルニ及ンテ其地位ヲ變シ權利行為ナル文字ノ上ニ置キタルカ爲メ却テ意義ノ模稜ヲ致シタルハ實ニ歎スヘキノ修正ト云ハサル可カラス又或人ハ直接及ヒ間接ナル文字ヲ以テ利益又ハ生計ノ爲メニスルト云ヘルニ繋ラシメ而シテ直接或ハ間接ノ利益ヲ得ル爲メト云フ意義ナリト解釋セリ此解釋ハ前述ノ說ニ比スレハ稍勝レリト雖モ亦適用シ能ハサルノ場合アルヲ以テ未タ完全ナリトナス能ハサルナリ而シテ如何ナル場合ニモ適用シテ敢テ不都合ヲ生セサルハ唯其直接及ヒ間接ナル文字ヲ轉換ニ繋ラシムルノ一方法アルノミ且此解釋ハ決シテ根據ナキ予一己ノ揣摩說ノミニ非スシテ之ヲ佛國ノ商法ニ稽ヘ又我商法草案ノ說明ニ徵スルモ其正當ナルコト更ニ一點ノ疑ナキ所ナリ

以上講述スル所ニ依リ商取引ノ何タルヤハ已ニ明瞭ニシテ且其五要素ヨリ成立スルコトモ亦炳焉タラン然リ而シテ前述ノ五要素中僅ニ其一ヲ缺クトキハ則チ法律上ノ商取引ニ非サルナリ今諸君ヲシテ了解シ易カラシメンカ爲メ第四條ノ意義ヲ約言センニ商取引トハ直接ト間接トヲ問ハス取捌ノ方法ニ依リ貨物ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル一切ノ法律上ノ行為ナリト云フヲ得ヘシ茲ニ一ノ注意スヘキコトハ此商取引ナル語中ニ農工商三民ノ業務ヲ包含スルコト是ナリ其故如何トナレハ第四條ニ產物商品又ハ有價證券ノ轉換云々トアルヲ以テ彼農夫等カ利益ノ目的ニテ野菜穀物等ヲ販賣スルモノノ商取引タリ又所謂工藝部ニ屬スル物産ヲ製造スルモノカ其製造品ヲ販賣スルモ亦一ノ商取引タレハナリ蓋シ此等ノ業務タルヤ直接ニ貨物ヲ轉換スルモノニ非スト雖モ畢竟其豫備事業ニシテ間接ニ轉換スルモノナリ西班牙ノ商法第三百六十條及ヒ獨逸ノ商法第二百七十條第二百七十二條ニ依テ見レハ工藝上ノ作業ハ商取引中ニ屬スルモノ、如クナレトモ農業上ノ原產物所得者ノ供給取引等ハ之ヲ商取引ノ區域内ニ編入セス佛國ノ商法第六百三十二條ニ依ル

モ工業上ノ事業ハ商法中ニ規定セリト雖モ土地所有者及ヒ葡萄製作者カ其土地ヨリ獲得スル生産物販賣ノ取引ハ之ヲ商取引中ヨリ除テ商法ニ規定セサルナリ(佛國商法第六百三十八條然レトモ此ノ如キ區別ヲ設ケタルハ要スルニ職トシテ沿革ニ是レ由リタルモノニシテ即チ商法ヲ以テ商人ノ身分法ナリト安斷シタル古代ノ思想ニ胚胎シ農業上ノ所有權ト商業上ノ所有權ヲ區別シタルモノナラン幸ニ我商法ハ卓然トシテ斯ル妄想ヲ排斥シ二者ノ區別ヲ設ケサリシハ實ニ他各國ノ法典ニ比シテ優レリト謂ハサル可カラス元來自己ニ利益ヲ得ントノ目的ヲ以テ農夫カ米麥ヲ販賣シ工藝人カ其製造品ヲ販賣シ鑛業家カ採掘シタル鑛物ヲ販賣シ又森林所有者カ木材薪炭類ヲ販賣スルモ唯其業ヲ異ニスト云フニ過キスシテ所謂經濟上ノ需要供給ノ原理ニ從ヒ資本ノ融通ヲ目的トスル點ニ於テ毫末モ異ナル所ナシ故ニ苟モ其分業中ノ一ニシテ商取引ノ部内ニ屬スヘキモノトセハ他ノ分業モ亦之ニ屬セサル可カラサルナリ既ニ前述シタルカ如ク商法ヲ以テ商人ノ身分法トナシ商人ニノミ關スル特別ノ規定トナスモノニ在テハ或ハ民法ト商法トナ區別スルノ必要アルヘシト雖モ我商

サル所ナレバ水道會社ニ責ムルニ此ノ如キ嚴霜ニモ堪ユヘキ準備ヲ以テスルヲ得サルカ故ニ本件ノ損害ハ被告不注意ノ結果ト云フコトヲ得ストテ原告ノ請求ヲ棄却シタリ

〔十一〕 シヤープ對パウエルノ事件

此場合ニ於テ被告ハ市ノ取締條例ノ禁スル所ナルニモ拘ハラズ公道ニ於テ荷車ヲ洗ヒタリ若シ何事モナカリシナラハ水ハ流レテ十二三間距リタル鐵網ヲ通り下水管ニ注クヘカリシナ嚴霜ノ爲ニ鐵網凝結シ居リ水流レ入ル能ハス鐵網ノ周圍ニ溢レテ亦凝結セリ適原告ノ馬其上ヲ通り掛リ之リテ前足ヲ折リタリ因リテ原告ハ損害賠償ノ請求ヲ爲セシカ裁判所ハ斯ノ如キノ損害ハ被告カ車ヲ洗フタルコトノ通常ノ結果ト云フヘカラスシテ被告カ斯ル場合ニ通常豫想シ得ヘキコトニアラサレハトテ被告ニ責任ナシト判決セリ尤モ此事件ニ於テハ被告ハ豫メ鐵網ノ凝結シ居リタルコトヲ知リ居リシトノ證據ハアラサリシナリ

第七節 一。私人ノ行爲ナルヘキ

私犯上ノ責任ヲ生スルニハ一私人トシテ行フタル行爲ナラサルヘカラス故ニ
 國家行爲、司法處分、行政處分ヨリシテハ決シテ私犯上ノ責任ヲ生スルコトナシ
 第一 國家行爲 國家ノ主權即チ國家カ國家トシテ有スル權力ハ最高無限
 ナルカ故ニ其權力ノ實行即チ國家カ國家トシテ行ヒタル所爲ニ因リ責任ヲ負
 フヘキ理アルナシ然レトモ畢竟國家ノ權力カ最高無限ナルカ爲メ國家ハ國家
 ノ意思次第ニテハ國家ニ附スルニ私法上ノ人格ヲ以テスルヲ得ルカ故ニ一旦
 私法上ノ人格ヲ附與シタル以上ハ國家カ一私人トシテ行ヒタル所爲即チ國家
 カ國家トシテ有スル權力ニアラスシテ一私人トシテ有スル權能ニ依リ行ヒタ
 ル所爲ニ就テハ國家ハ私法上其責ニ任セサル可カラス國家カ國家トシテ有ス
 ル權力ニ依リ行フ所爲ヲ國家トシテハ國家ノ行爲ト云ヒ國家カ一私人トシテ
 有スル權能ニ依リ行フ所爲ヲ一私人トシテハ國家ノ行爲ト云フ一私人トシテ
 ノ國家ノ行爲ニ就テハ國家ハ其責ヲ負ハサル可カラサルモ國家ヲ代表シテ其

所爲ヲ行フタル一己人ハ其責ヲ負フヘキ理ナシ然レトモ國家トシテノ國家ノ
 行爲ニ就テハ國家ヲ代表シテ其所爲ヲ行フタル一己人モ國家モ共ニ私法上責
 任ヲ負フヘキニアラス國家トシテハ國家ノ行爲ヲ國家行爲ト云フ然レトモ國
 家カ其國內ノ臣民ニ對シテ行フタル國家行爲ハ通常之ヲ國家行爲ト云ハスシ
 テ却テ司法處分若クハ行政處分ト稱シ通常國家行爲ト云ヘハ一國カ他國若ク
 ハ他國ノ臣民ニ對シテ行フ國家行爲ヲ指ス故ニポロツク氏ノ如キハステトブン
 氏ノ語ヲ引用シ「國家行爲トハ獨立セル外國ノ帝王若クハ治者カ其政治上及主
 權上ノ資格ヲ以テ其權限内ニ於テ行フタル行爲若クハ英國帝王ノ權力ヲ代表
 スル文武官カ現ニ英國ノ臣民ニ非サル者ノ身體若クハ財產ニ對シテ行フタル
 有害ノ行爲ニシテ英國王ノ預メ裁可シ若クハ追認シタルモノナリ」ト云ヒ私犯
 上ノ責任ヲ發生セサル場合ノ一トシテ列舉シ且ツブーロン對デンマンノ事件
 ヲ引證シタリ
 同事件ノ事實如何ト尋ヌルニ被告ハ英國海軍ノ船將ニシテ亞弗利加西岸ノ一
 砲臺ヲ燒撃シ同所ニ在リタル奴隸ヲ解放シタリシカ其解放ノ所爲ハ後ニ至リ

英國々務卿ノ追認スル所トナリタルカ故ニ奴隸ノ持主ヨリテンマンニ係リ損害賠償ノ請求ヲ爲シタル場合ニ英國裁判所ハ被告ニ責任ナシト判決セリ

第二 司法處分 國家カ其臣民ニ對シテ直接ニ行フ所ノ所爲ニ二ツアリ曰ク行政處分曰ク司法處分是ナリ司法處分トハ既ニ生シタル事實ニ付テ權利義務ノ所在ヲ確定シ相當ノ制裁ヲ加フルコト及ヒ其權利義務ノ所在ヲ定ムルニ必要ナル手續ヲ行フコト之ナリ國家ハ無形人ナルカ故ニ國家カ司法處分ヲ行フニ付テハ固ヨリ國家自ラ實行スルコト能ハサルヲ以テ相當ノ官吏ヲシテ之ヲ行ハシメサルヘカラス而シテ其官吏ノ行フタル處分ニシテ錯誤或ハ過失アリタル時其局ニ當リタル官吏ヲシテ一々其錯誤或ハ過失ノ責任ヲ負ハシメテハ到底安シテ其職務ヲ行フコト能ハサルヲ以テ司法處分ニ付テハ錯誤或ハ過失アルモ當局者一己人トシテ其責ニ任スルコトナキハ東西共ニ同一ナリ英國ニ於テハ判事カ裁判官トシテ裁判所ニ於テ行フタル行爲若クハ發シタル言語ヲ以テ訴訟ノ原因トナスコトヲ得ストノ原則定マリ居リ仲裁人ノ判斷ニ就テモ亦同様ノ規則アリ日本刑事訴訟法第十四條ニ

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲナスコトヲ得ス

但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

トノ明文アルモ亦同一ノ精神ニ外ナラス民事訴訟法ニハ別段其明文ナシト雖モ右ノ原則ハ民事刑事ニ通シテ適用スヘキハ論ヲ待タサルヘシ

第三 行政處分 行政處分トハ裁判所ノ命令若クハ其執行ニアラスシテ行政官カ國家ノ行政機關トシテ人民ニ對シ直接ニ行フ所ノ所爲ヲ云フ即チ行政處分ニ付テハ其處分ヲ行フタル一己人ハ其責ニ任セス然レトモ之レ亦名ヲ行政處分ニ假リテ別箇ノ行爲ヲ爲シタルトキハ其責ニ任スヘシ而シテ英國法ニアリテハ官府ノ處分ニ不法ナシ換言スレハ官府ノ處分ハ常ニ適法ナリトノ法理ヲ取ルカ故ニ若シ行政官ノ處分ニシテ違法ナルトキハ其官吏カ一箇人ノ資格ニテナシタルモノト看做シ之ニ對シ何時ニテモ賠償ヲ求ムルコトヲ得セシム我國ニアリテハ行政官廳ノ處分カ法律ニ反スルモ官廳ノ處分トシテ形式ニ

缺クル所ナク且實際官廳ノ處分トシテ行フタルモノハ則チ官廳ノ處分ト看做ス即チ法理ニ於テ官廳ノ違法處分ヲ認ムルヲ以テ之カ爲メニ權利ヲ害セラレタル場合ニハ或ル特別ノ事項即チ法律ニ明定セル場合ニ限り行政裁判所ニ出訴シテ其處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ得故ニ官吏カ惡意カ又ハ重過失ニテナシタル外ハ之ニ對シ一己人トシテ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第八節 自己ノ所爲ナラサルヘカラス

自己ノ所爲ニ對シテハ常ニ責任ヲ負ヒ他人ノ所爲ニ對シテハ責任ヲ負ハサルハ私犯上ノ原則ナリ然レトモ古來ヨリノ法語ニ他人ニ委任シテ事ヲ行フハ自ラ行フニ均シト云フコトアリテ代理人ノ所爲ニ對シテハ本人其責ニ任スルヲ原則トス本人カ代理人ノ所爲ニ付キ責ニ任スルハ一見シテハ他人ノ所爲ニ付キ責ニ任セスト云フ原則ノ例外ノ如キ觀ナキニシモアラス因テ茲ニ本人代人ノ私犯ニ付キ責ニ任スル場合ヲ三箇ニ分チ英國現行法ヲ說明シ果シテ本節原則ノ例外ナルヤ將又例外ノ如キ外觀アルモ其實然ラサルヤヲ說明セントス

第一項 本人カ預メ代理人ニ命令若クハ委任シテ

私犯タル行爲ヲ行ハシメタル場合

代理人カ代理人トシテ行フタル所爲ニ因リ第三者ニ損害ヲ負ハシメタル時ハ代理人ハ其所爲カ本人ノ命令若クハ委任ニ基キタリト云フコトヲ理由トシテ責任ヲ免ル、コト能ハス何トナレハ畢竟代理人カ本人ノ命令ニ應シ若クハ委任ヲ承諾シタレハコソ損害ヲ生シタレハナリ然レトモ其委任若クハ命令シタル事項夫レ自身カ一箇ノ私犯ヲ組成スル場合ニハ本人モ亦其責ニ任セサル可カラス蓋シ本人ノ命令若クハ委任アリタレハコソ代理人其所爲ヲ行フニ至リタルナレハ本人ノ命令若クハ委任モ亦損害ノ一原因ナルカ故ナリ而シテ本項ノ場合ニ於テハ代理人タル者本人ノ雇人ナルト請負人ナルトヲ問ハサルナリ例ヘハ瓦斯會社カ請負師ニ委任シテ街道ニ穴ヲ掘ラシメ一人其穴ニ陥リテ負傷シタリト假定セヨ地方廳ノ認可ヲ經スシテ穴ヲ鑿チシナラハ固ヨリ一箇ノ

非行トナルカ故ニ瓦斯會社ハ他人ニ請負ハシメタリトノ理由ヲ以テ負傷者ニ對スル賠償ノ責ヲ免ル、能ハス然シナカラ請負人ノ所爲ニ對シテ責ニ任スル場合ハ必ス其請負ハシメタル事柄自身カ非行トナル場合ナラサル可カラス蓋シ請負人カ請負事業ヲ執行スルニ當リ取ルヘキ方法ニ就テハ本人ノ差圖ヲ受クルモノニアラサレハ請負事項夫レ自身カ他人ノ權利ノ侵害トナルニアラスシテ請負師ノ執行方法拙ナルヨリシテ他人ニ損害ヲ生セシメタル時ハ之レ請負師ノ過失ニシテ本人ノ與リ知ル所ニアラサレハ本人固ヨリ其責ヲ負フヘキ理由ナケレハナリ

何レニセヨ本項ノ場合ニ本人責任ヲ負フハ必竟損害ノ原因者タルニアレハ自己ノ所爲ニ就キ責ニ任スルモノニシテ他人ノ所爲ニ就キ責ニ任スルニアラサルナリ

第二項 代理人ノ私犯タル行爲ハ本人ノ豫メ委任

若クハ命令シタルニアラスシテ後ニ至リ

平均ハ四割一分六厘ナリト雖モ八十六年ニハ物價ノ下落ニ由リ從量稅ヲ負擔スル物品ニハ自然高率トナリ平均四割七分一厘ノ割合トナレリ然ルニ十九年二月中尙ホ之ヲ不足トシ更ニ其率ヲ高メタリ

魯國ハ西曆千八百八十七年七月外國產ノ鐵及鋼鐵ニ非常ナル高率ノ稅ヲ課シ殆ント禁止稅ノ點ニ達セリ獨逸ハ從來鐵及鋼鐵具ヲ魯國ヘ輸出シ魯ヨリ五穀ヲ輸入セシニ近來大ニ五穀輸入稅ノ率ヲ增加セシニ由リ忽チ兩國貿易ノ發達ヲ抑制セリ是レ魯米ノ競争ヲ避ケントスルノ意ニ出タルカ如シ元來英佛獨等歐洲ノ故國ハ到底農事ヲ以テ合衆國濠洲等新開ノ國ト競争スルコト能ハサルヘシト雖モ獨リ魯國ハ土地廣大ニシテ以テ是等ノ競争ニ堪ユヘシ然レトモ魯國ノ農事ハ未タ合衆國等ノ如ク機械器具ニ精巧ナラス尙ホ大ニ改良スキノ餘地アルハ世人ノ普ク信スル所ナリ然ルニ亦歐洲他國ノ風潮ニ漂ヒ其政略工業ノ保護ニ傾キ殊ニ英米ノ製造物ヲ敵視シテ其輸入スル所ノ機械器具ニ高稅ヲ課シ以テ自ラ得タルモノトナスト雖モ却テ一方ニ於テハ自國農業ノ缺典ヲ補フヘキ便路ヲ斷ツハ策ノ得タルモノニ非ス抑モ魯國ハ其人口ト土地ノ關係ヨ

リ論スレハ尙ホ農國ニ位シ農事ヲ以テ財源發達ノ捷路トスルヲ上策トス然ルニ謀此ニ出テス既ニ故國タル獨佛等ノ例ニ倣ヒ工業ノ保護ニ汲々タルヲ以テ大ニ農事ノ發達ヲ妨ケ農作物輸出ノ爲メニ船舶ハ輕荷ニテ魯ノ諸港ニ來ラサルヲ得ス隨テ運賃高カラサルヲ得ス第三國市場ニ於テ競争ノ便ヲ失フヤ大ナリ而シテ魯國ハ其サイレシヤノ境其他ノ地方ニ於テ廣大ナル石炭坑ヲ有シ其質亦純良ナリ故ニ大ニ外國石炭ノ輸入ヲ壓シ以テ其事業ヲ擴張セントス然レトモ石炭ノ保護ハ工業ノ發達ニ便ナラス又農業用機械ノ使用ニ不便ナリ此ノ如ク首尾相應セサルノコトハ獨リ魯國ニ止ラス方今諸般ノ事業上其利害ノ相衝突スルハ沼々タル天下皆是レナリ豈ニ一方ニ偏シ漫ニ保護政策ヲ施スヲ以テ國利トスルコトヲ得ン哉殊ニ魯國ノ如キ其版圖廣大ナル國ニ於テハ勢ヒ只國產ノ石炭ノミヲ以テ需給相應シ兩者常ニ其平衡ヲ得ントスルハ到底行ハル可カラス時ニ或ハ供給ニ不足ヲ生シ價格ノ暴騰スルコトアリテ諸般ノ事業大ニ其不便ヲ感シ輸入税ノ高キニ拘ハラズ外炭ノ侵入ハ必ス免レサル所ナリ既ニ同國南部鐵道ノ如キハ屢々外炭ヲ用ヒテ其用ヲ足スト云フ而シテ輓近魯國ハ

獨逸人民ノ移住ヲ好マス殆ント之ヲ拒絕セシニ由リポーランド地方ノ石炭坑ハ之カ爲メ從前ノ盛況ヲ維持スルコト能ハサルノ勢アリ是レ魯國ノ政略上或ハ已ムヲ得サル事情アルヘシト雖モ此幾多ノ獨逸人ハ間接ニ魯國人口ノ増殖ト同様ノ價ヲ爲シ以テ同國諸般ノ事業ヲ發達セシムルニ於テハ至便ノ力アリ之ヲ單純經濟上ヨリ視レハ魯國ノ爲メニ最モ取ラサル所ナリ輓近保護政策ノ再燃スルヤ其勢ヒ半途ニ止ル能ハス外品輸入ヲ忌ムノ情ハ遂ニ延テ外國勞力ノ輸入ヲ拒ミ甚シキハ同國內ノ一地方人民カ他ノ地方ノ勞力競争ヲ忌ムニ至リ殆ント中世經濟思想ノ再發シタル如シ中庸ノ能シ難キ夫レ此ノ如キカナ而シテ古ヨリ常ニ此極端ノ勢ヲ誘導スルモノハ佛國ニシテ動モスレハ全歐ヲ風靡スルハ亦一種ノ特性トス其事ノ善惡當否ハ暫ク措キ佛國ノ常ニ風ヲ移シ俗ヲ易ヘ敢テ憚ル所ナク天下ノ耳目ヲ蕩殺スルノ勢アルハ亦盛ナリト云フヘシ凡ソ物極マラサレハ變セス佛國ハ人文ノ發達四海ニ冠絶シ其勢ノ極ル所諸國ニ先鞭ヲ着ルノ風アリ故ニ其變ヲ生スルモ亦一步ヲ先ス實ニ一得一失ノ存スル所豈ニ怪ムニ足ランヤ彼ノ白耳義ノ如キハ措テ問ハス獨逸

ノ如キ甚シク佛國ヲ敵視シ國家ノ制度殊更ニ佛國ト異ニスルノ風アリト雖モ如何セン經濟自然ノ情況ニ至テハ常ニ佛國ニ隨伴セサルヲ得サルモノアリ是レ其關係ハ到底人爲ノ制御スル能ハサル理アルヲ以テナリ吾人試ニ佛國輿論ノ傾向如何ヲ見ルニ其勞力者タルト資本家タルトヲ問ハス總テ外國ノ勞力ハ之ヲ政府事業ニ用ユヘカラス外品ハ國用及公共ノ爲メニ使用スヘカラストスルニ似タリ既ニ人文此ノ如キノ度ニ達シタル所ト雖モ其人智ハ尙ホ一ヲ知テ二ヲ知ラサルノ感ナキニ非ス國內割據ノ風習未タ全ク溶解セス其念慮ノ尙ホ盛ナルハ恰モ動物世界ニ於テ時ニ或ハ祖先遺形(アンセストリヤル、レリック)ノ現象ヲ呈スルカ如ク中世祖先ノ經濟及政治思想ヲ再燃シタルノ勢ヲ見ル實ニ已ムヲ得サルノ數ナリ而シテ其真情タルヤ外國勞力ノ使用ハ敵國間牒ノ侵入ヲ容易ニスルノ恐アリトスルモノニ似タリ果シテ然ラハ政治上亦之ヲ如何トモスル能ハスト雖モ近時佛國ノ爲ス所ヲ見ルニ殆ント其極端ニ達セリ則チ其國會提出案ノ一ニ曰ク佛國ノ石炭ニ非サレハ佛國ノ海軍用ニ供スヘカラス佛國ノ燕麥ニ非サレハ佛國ノ陸軍用ニ供スヘカラス其他苟モ佛國ニ於テ產出ス

ル物品ニ非サレハ外國ヨリ輸入スルモノハ之ヲ公用ノ爲メニ用ユヘカラス只其物品ニシテ佛國ニ産セサル必需物ハ已ムヲ得ス之ヲ禁外トスト是ニ於テ政府モ亦大ニ注意シ輿論亦之ヲ可トセリ而シテ其目的ハ更ニ一層外國ノ勞力物品ニ不便ヲ與ヘントスルノ意アリト雖モ只外國政府カ復讎報答ノ舉アルヲ恐レ充分ノ慾ヲ逞フスル能ハサルニ似タリ既ニ外物ヲ排除スルノ念慮此ノ如ク極度ニ達スルニ拘ハラス其外國勞力使用ノコトニ於テハ更ニ之ヨリ甚シキ事實アリ彼ノ西曆千八百八十九年ニ巴里萬國博覽會ヲ開設スルニ當テヤ政府ハ萬國ニ向テ友誼ヲ表シ出品ノ多カラシコトヲ望ムト同時ニ其建築ノ工事ハ一切外人ノ之ニ關係スルヲ許サス又現ニ佛國ニ於テ開店スル外人ノ會社ト雖モ決シテ之ニ關スルコトヲ許サ、リシハ實ニ外物ヲ排斥スル之ヨリ甚シキモノナカルヘシ是ヲ以テ其反應ハ中世ノ「ギル」組織則チ特權會社法ノ組織自然ニ發達シ職工ノ人員、見習ノ人員、品物價格ノ指定、勞力時間其他ノ事件ヲ定ムルノ實カヲ得其強施ヲ試ミルノ勢アリ是レ他ニ開明ノ進度甚タ急ナリシニ由リ資本大ニ其力ヲ得勞力者細民ノ知力之ニ應スルヲ得ス優勝劣敗自然ノ結果タラ

ナルヲ得ス夫レ此自然ノ勢ヨリ來ルモノハ固ヨリ已ムヲ得サルモ世間多クハ政府ノ威力ヲ借り陰ニ私利ヲ營マントスルモノ比々之レアリ豈ニ之ヲ不問ニ措テ可ナランヤ近時巴里ノ窓職人ハ公然政府ニ請願シテ曰ク願クハ我等一「ギル」〔特許會社〕ヲ組織シ一切外人ヲ驅逐シ假令佛人ト雖モ我等ノ中間ニ非サルモノハ佛國領内ニ於テ窓職ニ從事コトヲ禁止セント又巴里ノ大工左官等ハ地方ヨリ同業者ノ入り込ムヲ忌ミ彼等ハ低廉ナル勞銀ヲ以テ満足スルヲ以テ巴里勞力者ハ其競争ニ苦シムト云フ所以ヲ以テ府廳へ對シ大ニ苦情ヲ唱へ終ニ府廳ヲシテ挽割リタル材木其他人工ヲ加へタル材木ヲ府内ニ輸入スルモノニ入市稅ヲ課シ以テ巴里勞力者ヲ保護セシムルニ至ル是ニ於テ乎巴里府内ノ洗濯婦ハ之ヲ奇貨トシ府外ヨリ洗濯シタル衣類等ヲ輸入スル時ハ之ニ入市稅ヲ課セシムルコトノ請願ヲ府廳ニ致シ遂ニ此例ヲ延キ此ノ如キ請願百出シ其止マル所ヲ知ラサルニ至ル若シ夫レ大工ノ請願ヲシテ理アリトセハ何ソ洗濯媪屑拾翁ノ請願ヲ理ナシトスルヲ得ン哉今世ノ人中世ノ甲冑屋臘燭屋ノ請願談ヲ聞キ抱腹ヲ催フサルハハナシ然ルニ其目前ニ於テ是ヨリ奇ナル奇觀アルヲ認メサ

ルハ所謂燈臺元暗シト云ハサルヲ得ス豈ニ慎マサルヲ得ヘケン哉經濟上ノ變動ニ由リ勞力社會ノ思想亦漸ク變シタルニ乘シ彼ノ狡猾ナル僧徒中或ハ中世ノ景況ニ復セントスル者アリ曾テ數年前白耳義ニ於テ羅馬教徒ノ集會ニ當リ勞力問題ノ議ヲ起シ「ゾーヂ」ノ僧正ハ大ニ氣焰ヲ吐キ中世ノ「ギル」組織ハ之ヲ恢復セサルヲ得ス而シテ營業人中ヨリ熱心ナル教徒ヲ選ヒ僧徒ト共ニ此組織ヲ監督セシメ故上人ノ冥力ヲ借り各營業ノ守護者トシ其業ニ從事スル者ハ資本家勞力者ヲ問ハス總テ其上人ノ祭祀ヲ掌リ葬儀其他ノ宗教上ノ儀式ニ參與シ仲間中ハ相互ニ救助ヲ爲スヘキ旨ヲ主張セリ元來僧徒ナルモノハ寺院ニ蟄居シ曾テ世上風潮ノ艱難ヲ顧ミス只神佛アルヲ知テ其他ヲ知ラサルヲ以テ其本分ナリトス然ルニ勞力問題ノ如キ俗事ニ容喙シ細民ノ心ヲ收攬セシムルコトヲ謀ルハ固ヨリ自ラ爲ニスル所アルモノニシテ忽チ識者ノ笑ヲ招キ其自負スル所ノモノハ偶マ以テ其德ヲ損スルノミ弊モ亦甚シト云フヘシ然レトモ内能ク整フ時ハ外其侵害ヲ受クルモノニ非ス畢竟僧徒等ヲシテ是等ノ說ヲナサシムルモノハ俗世ノ處理其宜キヲ得サルニ座スルハ亦責ヲ免ルヘカラス

近時歐洲諸國ノ爲ス所ヲ見ルニ往々宇内ノ大理ニ通セス僅カニ國內割據ノ風
 習ヲ脱シテ大陸割據ノ風トナリシカ今ヤ其力ハ却テ反動シ退縮ノ勢洲境ニ止
 マラス漸次退テ國境ニ及フモ尙其停止スル所ナク遂ニ退テ國內各地ニ波及ス
 ルノ傾キアリテ恰モ尺蠖進退ノ跡ヲ見ルカ如シ然レトモ世運ノ一張一弛ハ數
 ノ免レサル所實ニ已ムヲ得サルナリ只此弛張ニ會スル毎ニ後者ト前者ハ自ラ
 其趣キヲ異ニシ多少進歩ノ實利ヲ殘スハ亦大勢ノ向フ所ナリ則チ前陳ギル組
 織恢復ノ如キモ勞力者ノ團結ヲ固フシ其利益ヲ計ルノ一点ニ於テハ彼等忽チ
 同意ヲ表スヘキモ昔日ノ如ク徒ラニ僧徒ノ爲メニ其財ヲ分ツテ欲セス又昔日
 ノ「ギル」組織ハ一級ノ生産配當ノ業ニ從事スル資本家勞力者ヲ以テ一團結トセ
 シト雖モ方今ノ職工同盟仲間組合等ハ皆勞力者ノ團結ニシテ資本家ヲ交ヘス
 是世運ノ進歩スルニ從ヒ事毎ニ其趣ヲ異ニシ物毎ニ其質ヲ同フセサルノ致ス
 所ナリ西人ノ諺ニ曰ク世上二者相等シキモノナシト宜ナル哉今双生ノ兒ヲ見
 ルニ一見區別シ難キモ靜カニ之ヲ比スルニ大ニ異ナル所アリ而シテ其性質ニ
 至テモ往々反對ノ發達ヲ見ルモノナシトセズ既ニ同種同時ノモノ尙且然リ況

航路擴張論

文學士 中川恒次郎君述

荒浪市平速記

私ハ題ノ通り航路擴張論ヲ御話致ノデ御座イマス、主意ハ申ス迄モ無ク今日ノ
 場合ニ於テ外國ヘノ航路ヲ擴張シナケレバナラヌト云フ主意デ御座イマス、此
 考トイフモノハ近頃議院ニ自由派ノ代議士カラ議案ガ出マシタカラ昨今ノ考
 ノヤウニ思召ス御方モアルカモ知レマセヌカ疾ニ前方カラ此考ヲ持ツテ居リ
 マシテ既ニ三年前ニ小冊子ヲ著ハシマシテ其中ニ此事ヲ論シタ事ガアリマス
 併ナカラ拙者共ノ言フタル事ハ餘リ世人ノ耳ヲ傾ケサスルニ足ラヌ事デアリ
 シガ併シ今日此議案ノ提出サレルヤウニナリマシタノハ私ハ愉快ニ感シテ居
 リマス、殊ニ是マデハ何事ニモ消極主義ヲ執リテ進取的事業ニ反對シ「アドミニ
 スツレーチーヴ」ニヒリストト云フ名ヲ附ケラレタ自由派ガ此進取的議題ヲ出

スヤウニナリマシタカラ此航路擴張トイフ事ハ世間ノ輿論ニ於テ既ニ必要ト
認メタモノト思ヒマス夫レ故今更ラ私ガ擴張シナケレバナラヌトイフ理屈ヲ
事々々述ベルハ蛇足ヲ添ヘルヤウナ譯デアリマセウカラ格別彼是ハ申サス
デ只私ガ數年來アチラコチラノ領事館ニ在勤オシテ居リマシテ其所々見聞
シタリ心附イタリシタ事ニ付テ諸君ニ御話ヲ致サウト思ヒマスカラ暫クノ間
靜聽ヲ煩ハシマス、

夫レデ私ガ此海外ニ航路ヲ擴張シナケレバナラヌ必要ヲ第一ニ認メタモノハ
アチラ、コチラノ領事館ニ在勤シテ居リマシテ日本人ガ輸出品ヲ持ツテ來ル、其
輸出品ヲ持ツテ來ルノニ日本ノ船ガ通ハヌト餘程不便ヲ感ジテ居ル事ヲ第一
ニ認メマシタ日本人ハ追々ト外國ニ向ツテ商賣ナスル事ヲ始メマシテ中ニハ
慣レテ居ル人モアリマセウケレ共夫レハ少數デアリマシテ今日ノ場合ハ外國
ニ商賣ヲシニ出掛ケル者ハ極不慣ノ方デアルソレハ外務省ノ通商局又ハ領事
館ナトヘ商人ノ尋テニ來ル事柄ニテモ知レル夫レデ荷物ヲ出ス手數ナドモ運
賃ノ懸引ナドモ外國ノ汽船會社ニ掛合ツテスル事ガ誠ニ手ガ行届カヌト思ヒ

マス、或ハ充分利口ニ立廻ツテ懸引スル事ハ出來ルカ甚タ覺束ナイ私ハ支那ノ
南方邊ニ於テ日本人ノ商賣スル有様ヲ見テ居リマシタ夫レ大抵日本人ガ香港、新
嘉坡邊ニ物ヲ輸出スルニ支那人ガ日本品ヲ輸出スルヨリ一噸ニ付テ一弗半位
高ク取ラレテ居リマシタ日本人カ日本ノ製造品ヲ外國ニ持ツテ往クニ却テ運
賃ヲ支那人ヨリ高ク出サネバナリマセヌトイフヤウニナツテ居ル、夫レハ元來
支那人ハ自分ノ國ニ國產ガアリマセヌデ………全ク無イトイフ事ハアリマセ
ヌガ人口ニ比シテ物產カ足リマセヌ故ニ全體ニ矢張り商賣ヲ以テ重モトシナ
レテ居リマスカラシテ運賃ノ額ダノ保險料ダノ爲替手數料ダノ其他ノ諸費用
ニ於テモ西洋ノ汽船會社ナリ銀行ナリ保險會社ナリニ往ツテモ充分旨ク立廻
ツテ居ルデ御座イマス、併ナカラ日本人ハ未ダ一體ニ外國ノ商賣ニハ慣レテ居
リマセヌ、其懸引ガ出來マセヌ、殊ニ雜貨ヲ輸出スル小商人ニハ尤モ不慣ノ者多
イ夫レ故ドウシテモ運賃ナドノ掛引ニモ支那人ノ方ガ能ク慣レテ居ルサウ云
フ譯合デ日本人ハ自分ノ國ノ產物ヲ輸出シナガラ他ノ國ノモノニ負ケルヤウ
ナ次第デアリマス、今日ノ事ハ知リマセヌガ二三年前新嘉坡ナドニテハ百萬圓

以上ノ日本品ノ輸入ガアリマシテモ皆ナ支那人ノ手ニテ輸入シテ日本人ノ商賣ヲナスモノハ一人位デアリマシタスウ云フ有様デ日本人ガ外國ノ商賣ニ慣レルト云フ事ハ未ダ急ニ望マレル事デアリマセヌカラドウシテモ日本ノ汽船會社トイフモノガ追々ト外國ニ航路ヲ擴ゲル事ハ最モ必要ト思ヒマス然ウスレバ同國ノ汽船會社ナラバ無論言葉モ通ズルシ亦懸引モ色々ナ事情ヲ話シテ運賃ナドノ點ニ於テ直切ル事モ出來ル等ノ都合モ出來ルト思フ日本ノ輸出品ナ外國ニ出スニ於テハ此日本ノ汽船ガ外國ニ航路ヲ擴ゲテ居ラナケレバナラヌトイフ事ハ最モ必要ト其時認メタノデ御座イマス、

夫レカラ其次ニハ日本人ガ外國へ出掛ケルニ矢張り日本ノ汽船ガ外國ニ通ツテ居ラナケレバナラヌ必要ヲ認メマス、隨分近頃ハナカク新聞デ或ハ雜誌デ壯ナ、五大洲ヲ丸吞ニシテ居ルヤウナ議論ガアル或ハ山田仁左衛門ガ邏羅へ行ツタ、板倉重政ガ呂宋ヲ取ラウトシタ或ハ何處へ移住スルトカ云フヤウナ隨分壯ナ議論モ出テ居リマスケレ共此議論ガ出タバカリデ其議論ヲスル人ガ自ラ外國へ出ルトイフ事ハ殆ド無イ何故無イト云フト今日ノ場合デ日本人ガ外國

へ出ルノハ、オックトデ、アリマス、オックトデ、アルノハ色々事情ガアリマス或ハ日本人ノ程度ニ於テ遠遊チスル費用ニ堪ヘヌ場合モアリマセウケレ共第一ニ乗ツテ往カナケレバナラヌ船ガ外國ノ船デ一足日本ノ港ヲ離レレバ外國ニ行ツテ居ルヤウナ窮屈ヲシナケレバナラヌ自ツカラ氣ガ面倒ニナツテ往カナイトイフ事ハ必ズアラウト考ヘマス又輸出品ヲ獎勵スル爲ニ外國へ追々人ガ出掛ケルヤウニスル爲ニハドウシテモ日本ノ汽船ガ外國ニ航路ヲ擴ゲテバナラヌト思ヒマス成ルタケ日本人ガ多ク外國ニ遊ヒテ經驗ヲ積ミ内地雜居スルニ至リマゴツカヌ様ニスルニハ我が汽船ノ航路擴張ハ尤モ必要ニアリマス、夫レカラモウ一ツ是ハ直接ニ日本ノ利益ニナル點デ以テ外國ノ航路ヲ追々盛ンニシナケレバナラヌ必要ガアルト思フ今日日本ノ商賣ノ有様ハ御承知ノ通り只日本ノ粗製品ヲ製造品ハ甚タ少ナイ外國ニ送ルトイフ丈ケデアル、其送ルニモ大抵ハ日本ノ土地デ外國人ニ渡ス、態々其物ヲ日本人ガ外國マデ持ツテ往ツテ賣ルトイフ事ハ極ク尠シ、是ハ日本人ガ外國ニ持ツテ往ツテ賣ル事ハ無イト云フテモヨロシ、大抵橫濱デ外國人ニ手渡シテ仕舞フ外國人ハ自分ガ物ヲ製

造スル事ハ無ク日本人ガ製造シタ物ヲ買ツテ夫レデ利益ヲ取ツテ立派ニ暮シ
テ居ル、先年壞太利政府ノ報告ノ中ニアツタ事デ是ハ我が國ニテ内地雜居ヲ許
ス許サヌトイフ事ニ付テ彼ノ國ノ政府カラ橫濱ノ壞地利ノ領事ニ訓令ヲ下シ
テ御前ガ日本デ内地雜居ヲ許ストイフ事ガ何程壞地利ノ利益ニナルカナラヌ
トイフ事ニ付テノ意見ヲ申セト云ツテ訓令ヲ下シタ、其時ニ領事ノ返事ニハ開
港場ニ居ツテ生糸ヲ買ヒ込ミテ二割五分ノ利益ガ取レル、夫レニ何ノ面倒ヲ見
テ内地雜居杯キシテ夫レガ爲ニ治外法權ヲ破ラレルヤウナ馬鹿ハシナイギツト
シテ二割五分取レルカラ内地雜居ナスル必要ハナイ、夫レガ爲ニ治外法權ヲ撤
去サレルヤウナ必要ハ無イト云フ、返事ヲ出シタトイフ事デアリマス日本人ハ
自分ノ國ノ物ヲ製造シテ外國ニ賣ルニ常ニ横濱デ外國人ノ手ニ渡ス外國人ハ
二割五分ノ口錢ハ確カニ取レル生糸ノ例ガ一ツ、其外總テノ雜貨ニ於テモ大抵
六分ヨリ尠カラヌ口錢ヲ取ラレテ居ルト思ヒマス、丁度私ガ見積リヲシタニ生
糸丈ケデモ只日本人カラ買ツテ夫レカラ外國ニ積出ストイフ手數ヲスル丈ケ
デ年ニ七百萬圓位ノ金高ニナラウトイフ見積リヲシタ事モ御座イマスサウ云

フ風デアツテ畢竟日本人ハ雜貨ナドニ於テハ非常ニ儉約シテ價錢ハ成丈ケ低
クシ又用ヒル材料ハ減シ自分ノ生計ヲ尠クシテ非常ニ節儉シテ製造シテ居ッ
テ夫レデ商賣上ノ利益ハ外國人ニ占メラレテ居ル、斯ウ云フ有様デアリマス是
ハ段々商賣ノ上ノ話デ御座イマスガ運賃ノ上ニ於テモ同シク海運業ノ利益ヲ
外國ノ瀛船會社ニ大抵占メラレテ居ル今日外國カラ日本ヘ物ヲ取入レルコト
ハ日本ノ瀛船ガドレ丈ケノ部分ヲ取ツテ居ルカト云フコトヲチヨイト見マシ
タガ實ニ僅ナモノデアル是レハ明治二十四年間外國貿易概覽ト云フ大藏省ノ
主稅局デ出版シタモノヨリ書抜イテ參ツタノデアリマス金高ハ申シマセヌ唯
ダ割合ヲ申シマス明治二十年中日本ノ船ガ外國ヨリ荷物ヲ積込シタ其金高ノ
割合ハ總輸入高ノ一割一厘外國ノ船ガ積込シタ高ハ八割九分九厘夫レカラ二十
一年ガ内國船デ積シタ高ハ七分外國船ガ九割三分、二十二年ガ内國船七分八厘
外國船ガ九割二分二厘、二十三年ガ内國船ガ一割七厘、外國船ガ八割九分三厘、二
十四年ガ内國船ガ一割〇六厘、外國船ガ八割九分四厘、斯ウ云フ譯デ輸入ト輸出
ノ貿易高ノ上デ金高ノ八割九分殆ソド平均九割方ハ外國船ニ積シタ外國人ニ

商賣ヲサレテ居ル、日本ノ船ハ自分ノ物ヲ自分ノ國デ製造シソレテ外國ニ積出シ或ハ自分ノ國デ需要スル物ヲ外國カラ積込ム其場合ニ自分ノ國ノ汽船デ積ムコトハ僅ニ一割シカナイ商賣ト云フモノハ御承知ノ通り唯ダ物ヲ廉ク買ツテ高ク賣ルト云フ丈ケデハナシニ航海業ナドモ矢張り同シク商賣デゴザリマ航海業ヲシテ利益ヲ取ルモ矢張り貿易賣買上ヨリ利益ヲ取ル同様デアリマサウイフコトヨリモ利益ヲ取ツテ國ガ富ムノデ唯ダ今ノ如クニ物ヲ製造シテ夫ヲ賣ルバカリデ以テ迎モ盛ナ商賣トイフモノハ出來ルモノデハゴザリマセヌ云フマデモナク御承知デゴザリマセウガ英吉利ナドデ商賣ノ盛ナノハ唯ダ物ヲ製造シテ夫ヲ賣ルバカリデナク海運業ヲ以テ隨分大ナル利益ヲ得テ居ル其利益ガ非常ニ盛ナモノデアアル、十年程前ノ統計デゴザリマシタガ英吉利ノ船舶ノ運賃ノ揚リ高ガ四千五百萬磅之ヲ今ノ割ニシテ日本ノ正貨ニ直シマスルト凡ソ三億或ハ今日ニナツテ見ルト三億五千萬圓位ニナツテ居ルカモ知レマセヌ英吉利ハ製造トカ或ハ日本人ガ云フ商賣トイフモノ、利益デナシニ船ヲ動シテ得タル利益ガ其位アル諸君ノ中ニハ經濟學ヲヤツテゴッセンノ爲替論

トイフ約束デ見レバ人民ガ一緒ニ取リニ來レバ三十萬圓底ヲ拂ツテ政府ガ還シテヤラナケレバナラヌ、サウ云フ事ガ萬一起ラヌモノデモ無イ、ドウ云フ時ニ起ルカト云へバ内亂ガ起ツテ政府ノ基礎ガ危イ、或ハ外國トノ戰爭ガ起ツテ政府ノ基礎ガ危イトイフ事ガ一朝起ツタ日ニハ忽チ大藏省ノ門前ニ數萬ノ人民ガ輻輳シテ拂戻シテ請求スル其時ニ何デ以テ償還ニ應ズルカ、大藏省ノ金庫ニハ三十萬ノ金ガ仕舞ツテ無イ故ニ斯ル時ニハ日本銀行ヘ言付一時紙幣ヲ發行サセテドン、人民ニ拂戻シテ仕舞フ、併シナガラ事ガ治マレバ人民ガ又預ケニ來ルカラ夫レヲ以テ返ストイフ働キヲスルモノデアアル、夫レデアリマスカラ日本銀行トイフモノハ國庫金ノ取扱ヲ爲シ又戰爭ノ起ツタ時ニ軍用金ヲ供給シ又一時大藏省ノ支出ニ差支ヘル時ニ紙幣ヲ發行シテ之ニ應ズルトイフ働キヲ持タシテ居ル即チ財政上ニ於テ缺クベカラザル働キ持ツテ居ル、夫レデアリマスカラシテ平時日本銀行ニ重キ負擔ヲ課シテ居ルトカ或ハ平時日本銀行カラ無利息デ金ヲ借りテ置クトイフ事ハ宜シク無イ、日本銀行ノ資力トイフモノハ彈力ヲ失ツテ仕舞フ、平時餘力アレバコソ萬一ノ時ニ應スル事ガ出來ル、其萬

一ニ應スルモノナ平時借リテ置ケバ萬一ノ時ニ何モ無イ、サウ云フ事ニナツテ
 仕舞フカラ日本銀行ハ成丈ケ平日無事ノ時ニ資力カ豊カナ代リニ萬一事ガア
 ヲテ朝鮮ト戦サスルトカ露西亞ト戦サスルトカ支那ト戦サスルトカ云フ事ノ
 アツタ時ニ其準備金ヲ政府ヘ借リ受ケテ勝利ヲ得テ向フカラ償金デモ取ツテ
 來テバナラヌ夫レカラ又大藏省ノ門前ヘ數萬ノ人民ガ一度ニ拂戻シテ請求ス
 ル時ニモ一時銀行カラ借リテ還サナケレバ則チ政府ガ政府タル所ノ職務ヲ盡
 サヌモノデ國家ノ獨立ヲ保ツ事ノ出來ヌモノデアアル、先ツ此三ツガ財政上ニ於
 テ日本銀行ガ有シテ居ル關係デアリマス、即チ經濟上ニ於テ、六ツノ働キ、財政上
 ニ於テ三ツノ働キ、此九ツノ働キハ容易ナラヌ働キデアアルカラ如何ナル道理ノ
 アルニシテモ此九ツノ働キヲ妨ケルヤウナ目的ヲ以テ日本銀行ヲ攻撃シテハ
 ナラヌ、又日本銀行ニ稅ヲ課シテハナラヌ、若シモ稅ヲ課スルナラバ此九ツノ目
 的ハ少シモ傷ケヌヤウナ方法ヲ以テ日本銀行ニ稅ヲ課セカケレバナラヌト云
 フ事ハ諸君ガ御知承デアラウト思ハレル、
 夫レデ日本銀行ト申スモノハ右申ス如ク大變ナ國家ノ爲ニ重要ナル働キヌス

ルモノデアリマスカラ此機關ノアルガ爲ニ日本ノ經濟モ働キ財政モ働クノデ
 アル、併ナカラ此機關ヲ利用スルノハ誰デアルカ諸君デアアル、諸君ガ奮發シテ以
 テ充分此機關ヲ利用スレバ日本銀行ノ働キハ今日ニ幾十倍ノ働キナスル事ガ
 出來ル、此日本銀行ハ金融ノ機關デアリマス、只金融ノ機關ガアツテモ一方
 ニ商業ナリ工業ナリ農業ナリ盛ンニスル人がナケレバ何ノ用ヲモナサヌ、ダ
 カラ商業ナリ工業ナリ農業ナリニ從事シテ大ニ日本ノ經濟ヲ發達シ、財政ヲ發
 達シテ金融ノ機關ヲ利用シテ往クノハ諸君ノ責デアアル、
 是レ迄日本ノ人々ハ政治ヨリ貴イモノハ無イト云フ考ヲ持ツテ居ツタナレド
 モ日本人ト生レタカラニハ商業ナリ工業ナリ農業ナリ夫レノ充分ニ發達セ
 シムルヤウニシナケレバナリマセヌ、然ルヲ今迄ハ政治ノ貴イ事ノミ知ツテ政
 治ヨリ貴イモノハ無イト考ヘテヤツテ居ツタ、是レハ大キナ間違ヒデアアル、政治
 家ハ何デアアルカ、番人デアアル、詰リ人民ノ番チスルモノデアアル、國ノ爲メニハ番ヲ
 セラレルモノ、方ガ大切テ番チスルモノハ大切テ無イ、番チセラレルモノガ充
 分ニ發達シナケレバ何ノ役ニモ立タヌ、段々番ヲスル者ノ數ガ殖ヘテ官員ハ政

治家ノ數ガ四千萬出來タ所ガ夫レヂヤ國家ノ獨立ニ少シモ役ニ立チマセヌ(拍手喝采)故ニ諸君ハ政治トイフモノニ熱心スル事ヲ止メナケレバナラヌ、即チ諸君ハビツトデアルトカリセリユーデアルトカアレキザンドルデアルトカナボレオンデアルトカ云フ人ノ事業ヲ羨ム心ガアルニ違ヒナイケレ共是等ノ人ノ事業トイフモノハ今日ニ於テハ夢デアル、サウ云フ世界ヤ無イ、今日ハサウ云フ政治杯ニ重キヲ置ク世界デハ無イ、即チ經濟ヲ以テ身ヲ立テ道ヲ行ツテ往クガ今日ノ時勢デアリマス、即チ諸君ハ政治ニ熱心スル事ヲ斷然止メテ經濟ニ熱心シナケレバナラヌ、政治家ノ成リ果ハドンナモノデアアルカト云ヘバ日比谷ノ原ノ蛙合戦ガ政治家ノ成ノ果デ御座イマス、諸君ガドンナニ勉強シテ政治ニ熱心シテモ日比谷ノ原ノ蛙合戦ヨリ餘分ニハ往ケナイ(ヒヤ) 喝采(經濟ニ熱心スルナラバドレ程マデ進ミマスカ、即チ英吉利ノロスチャイルド米國ノバンデルビルドハ愚カ世界ノ商工業上ノ大王ニデモ何ニデモナレルカラ今日ニ於テハ諸君ガ充分ニ經濟ノ事ニ熱心シテサウシテ日本銀行ヲ益々利用スル事ヲ務メナケレバナラヌ、我々ハ經濟ノ學問ヲ講究シテ其道理ヲ説クモノデアリマス

カラ今日夫レヲ聞キニ御出ニナツタ諸君ハ必ズ經濟學ニ熱心ナルノミナラズ經濟ノ發達ニ熱心ノ人ニ相違ナイカラ敢テ夫レヲ諸君ニ望ムノデ御座イマス(拍手大喝采)

賣捌所

東京麴町區上六番町

日成堂

同 京橋區尾張町

東海堂

同 本郷區元富士町

解明堂

同 神田區錦町

武藏屋

同 神田區一橋通

有斐閣

同 神田區錦町三丁目

朝陽堂

麻布區永坂町五拾壹番地

旭堂

明治二十六年
明治二十六年

發行兼印刷者
東京市神田區

編輯者
東京市小石川

濱田

發行所
東京市神田區今川小

特別認可
私立